

学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県名

大阪府

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	八尾市立南山本小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	3	3	4	1	21	31
児童数	103	109	126	113	102	129	3	685	

実践研究の概要

1. 研究主題

『確かな学力を身につけ、意欲をもって学ぼうとする子どもの育成』
一人ひとりを大切にしたい、わかる授業・楽しい授業の創造をめざして

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生～6年生・算数
児童の理解度に差が出やすい教科であり、系統性を含んだ指導を要するため。これまでの研究成果から、実施学年の枠を広げ、研究に取り組むため。
- ・ 1年・2年・生活
課題学習や小集団活動に取り組ませるため。
- ・ 5・6年生・理科
観察・実験が増え、課題別に取り組ませるため。

(2) 年次ごとの計画

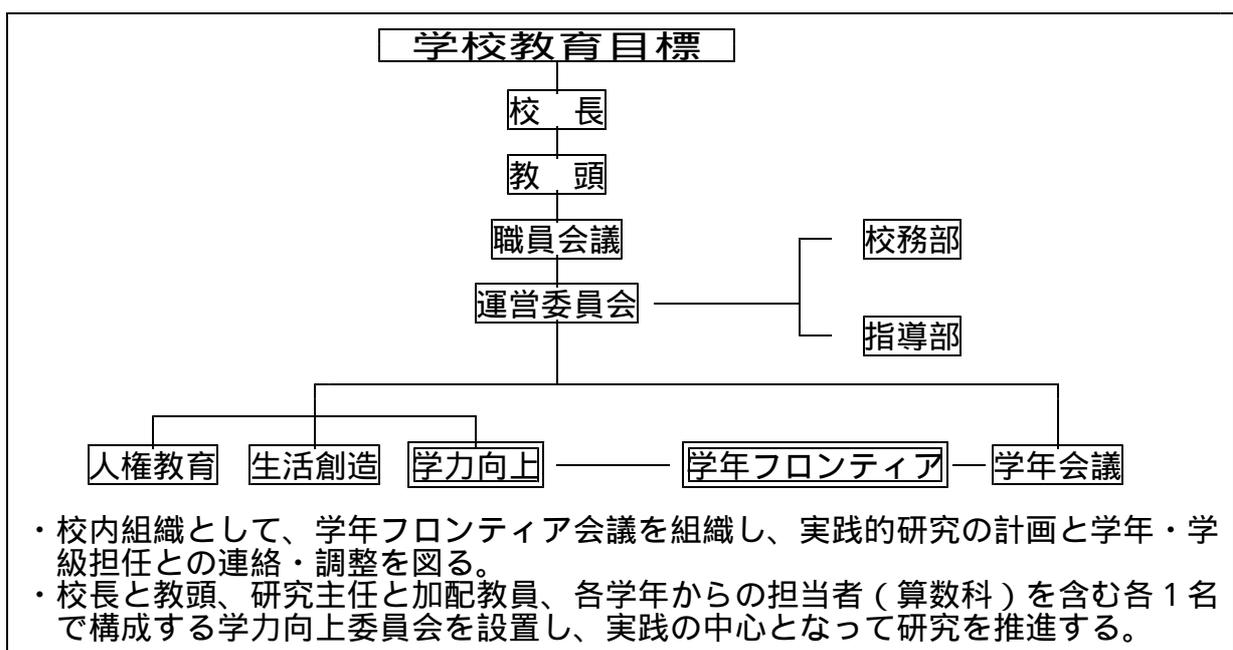
平成 14 度	<p>テーマ 「基礎学力の向上と多様な個性や能力を伸ばすための教育システムの整備」 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々のつまずきを早期に把握し、個に応じた指導・支援・反復練習の時間をできるだけ多く取り入れることによって、基礎・基本の定着を図ることができる。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業などのきめ細かな指導により加配教員が中心となり、基礎・基本の確実な定着を図るためのよりよい効果的な指導のあり方を研究する。 ・ 学習集団編成の弾力化、教科に応じた少人数指導や習熟度別学習を推進し、さらなる指導方法の工夫改善を行う。 ・ 少人数等担当者会議を組織し、指導計画と実践的な研究を進め、学年・学級担任との連絡・調整を図る。 ・ 興味・関心を引き出すための教材開発の研究。 ・ 校内研修会の実施。 ・ 研修として、推進校の視察。
---------------	---

平成 15	<p>研究発表（公開授業）に向けて、年度当初に全教員で話し合い・検討した結果、全体的な見直しを行った。</p> <p>テーマ 「確かな学力を身につけ、意欲をもって学ぼうとする子どもの育成」 一人ひとりを大切にしたい、わかる授業・楽しい授業の創造をめざして</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々のつまずきを早期に把握し、個に応じた指導・支援・反復練習の時間をできるだけ多く取り入れることによって、基礎・基本の定着を図ることができる。 ・ 個に応じた指導や学習集団編成の弾力化、教科・単元に応じた少人数指導や
----------	---

年度	<p>習熟度別指導の推進、分かる授業の実現、学習到達度調査などの継続的な取り組みにより、生きる力としての学力の向上をめざすことができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果測定をもとに、個に応じた指導のあり方、個を生かす授業の創造を研究し、基礎・基本の確実な定着と学力の向上を図る。 ・授業を中心とした取り組みとして、指導方法の工夫、教材・教具の工夫、評価の工夫の3点を全学年の共通課題として研究する。 ・前年度の成果を踏まえ、学習の効果測定や評価のあり方にさらに検討を加え、指導と評価の一体化をめざす。 ・学習集団編成の弾力化として、学年や教科、単元に応じた少人数指導や習熟度別学習を推進し、研究を進める。 ・校内体制を見直して学力向上委員会を設置し、実践の中心となって研究を推進する。 ・校内研修会や全学年による研究授業の実施。 ・研修として、先進校の視察。 ・(公開授業や報告会の実施。)
----	---

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力向上のために、さらなる指導方法の工夫・改善を行うとともに、研究成果の普及に努める。」</p> <p>仮説 ・個に応じた指導や学習集団編成の弾力化、教科に応じた少人数指導や習熟度別学習の推進、わかる授業の実現、学習到達度調査等の継続的な取り組みにより、生きる力としての学力の向上をめざすことができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年までの成果を踏まえ、さらに一人ひとりの学力、到達度、習熟度により配慮した指導方法・指導体制について研究を継続する。 ・学習効果をより高めるために、単元の特性や児童の実態に応じた学習集団の弾力的な編成について研究する。 ・効果測定や児童による自己評価などをもとに、指導と評価の一体化を図る。 ・思考過程をより豊かにするために、さらに教材・教具の工夫を行う。 ・校内研修会や研究授業報告会の実施。 ・研修として、先進校の視察。 ・(公開授業や報告会の実施。)
--------	--

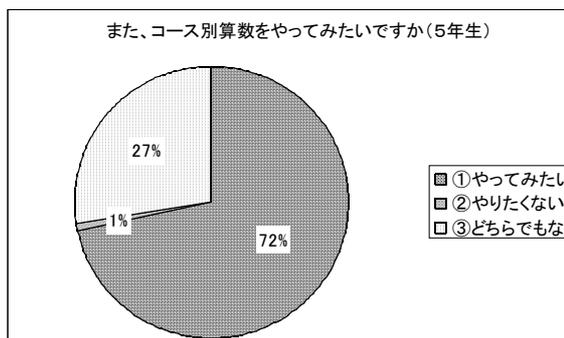
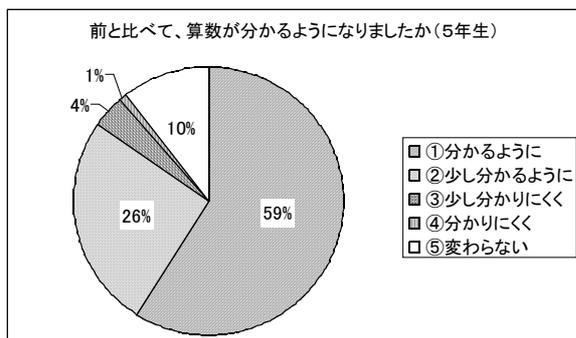
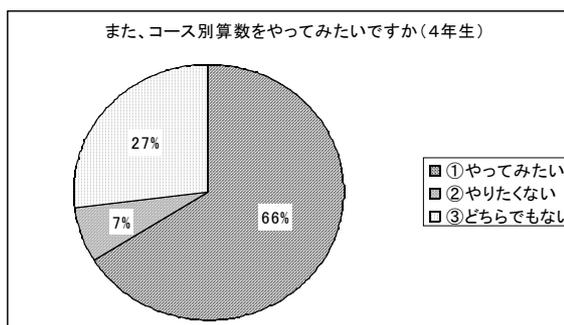
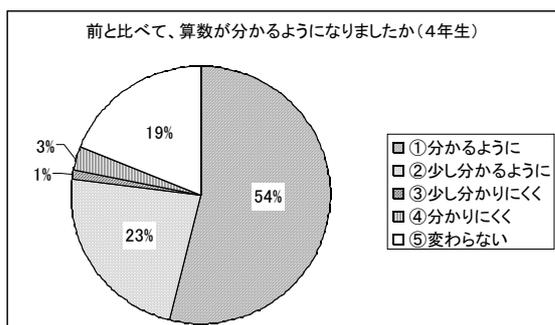
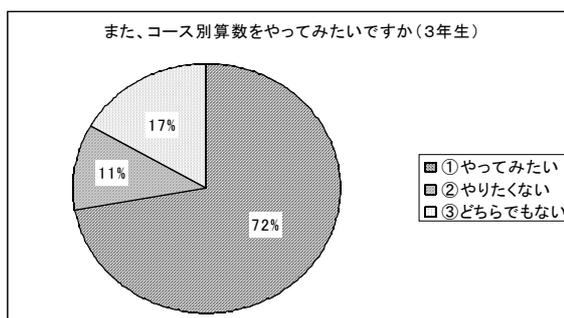
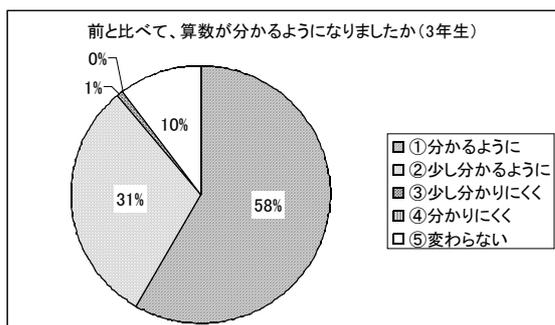
(3) 研究推進体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・指導方法の工夫では、全学年で少人数指導の多様な学習形態に取り組み、特に2年生では計算領域で分割指導を、3年生でも単元によって習熟度別指導を実施した。また、グループによる問題解決学習や子どもが主体となって進める学習など、新たな学習形態での指導にも取り組むことができた。
- ・教材・教具の工夫では、子どもたちが自分の手で作った物や身近にある物などの具体物や算数的活動（操作活動）を多く取り入れることによって、興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようになった。
- ・評価の工夫では、自己評価により子ども自身も学習にめあてをもって取り組めるようになり、指導者としても子どもの感動・興味・疑問点などがすぐに分かり、指導に生かすことができた。
- ・3・4・5年生の少人数指導のアンケート結果



- ・算数が前と比べて、「分かるようになった」「少し分かるようになった」が、およそ80%となっていることから、少人数指導による学習効果が表れていると考えることができる。
- ・習熟度別授業についても、およそ70%の児童が「やってみたい」と答えている。ただ、3年生については初めての学習方法であり、戸惑う児童もあったようである。また、学年によって指導方法も少しずつ異なっていたことも関係していると考えられる。

2. 今後の課題

- ・学年や児童の実態、あるいは単元によってどのような学習形態が効果的なのかを本年度の各学年の取り組みを整理し、見直すことにより次年度に引き継いでいく。
- ・少人数指導の中で、児童が主体的に学習に取り組んだり、児童同士の高め合いのある学習の中で、理解に時間のかかる児童が、本当にわかる授業・楽しいと思える授業の創造をさらに追求していく必要がある。
- ・習熟度別指導では、児童自身がコースを選択し、自分のペースで学習を進められるようになってきたが、さらに、児童への説明の中でコースの違いを明確にしていくとともに単元の途中でも学習形態を変えていくなどの工夫も必要である。
- ・発展的な学習を進める上で、達成感をもたせるための教材の研究。
- ・「学習ふり返しカード」など自己評価の方法・形式の工夫と評価規準の具体的な記述についての研究。

・学力等把握のための学校としての取組

- ・新しい単元に入る前に、既習学習の定着度の事前調査を実施（プレテスト）
- ・単元終了後の習熟度調査を実施（単元テスト）
- ・年度末（3月）に算数科の全領域で学習習熟度調査（学力診断テスト）と児童の少人数授業に対するアンケート調査の実施により、児童の学力の実態を把握するとともに少人数指導の取り組みについて次年度に生かしていく。

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

（保護者に対して）

- ・学校新聞を通じて、年度初めに学校長が教育方針を含めて説明するとともに、担当者を紹介する。また、学年だよりを通じて、分割授業の教科ならびに教育方法や教育内容について紹介する。
- ・PTA 総会の場で改めて学校長より教育方針を含めて説明し、保護者の理解と協力を得る。
- ・年間の授業参観で定期的に少人数指導の授業を公開するとともに、懇談会の場などを通じて保護者の意見を聴き、指導方法改善の参考にする。
- ・日曜参観において、PTA 教育講演会を実施した。（平成15年6月15日）
「子どもに確かな学力をどう育むか」
西川 信廣 教授（大谷女子大学）

（地域住民に対して）

- ・学校支援社会人等の指導者、学校園週五日制推進会議（わくわくプラザ）のボランティア、福祉委員会などに対し、学校新聞や地域懇談会の場を利用して取り組みを紹介するなど、情報を提供するとともに協力を求める。
- ・学校のHPに取り組みを紹介する。

（市内などの小学校に対して）

- ・中河内地区学力向上推進協議会において、フロンティアスクール間による情報交換・協議や研修を進め、市内や地区内の小学校に対して公開授業や報告会等を実施する。

（その他）

- ・校内職員研修会 平成15年4月25日 本校
「情報通信社会における算数・数学教育の新たな課題」
鈴木 正彦 教授（大阪教育大学）
- ・校内職員研修会 平成15年8月26日 本校
「これからの新しい授業づくり」
日和佐 尚 先生（奈良女子大学附属小学校）
- ・実践報告 平成15年8月27日 山本コミュニティーセンター
中河内地区小学校教育課程研究協議会・算数部会
「確かな学力の向上をめざして - 算数科における少人数指導の試み - 」
- ・実践報告 平成15年12月24日 中河内府民センター
中河内地区実践交流会 少人数指導の取り組み
パネルディスカッション
- ・研究発表会 平成16年2月6日 本校
「確かな学力を身につけ 意欲をもって学ぼうとする子どもの育成」
一人ひとりを大切にした わかる授業・楽しい授業の創造をめざして

(内容) 全学年の公開授業と研究成果の報告(研究紀要の作成)
北河内・中河内・南河内地区合同学力向上推進協議会
講演

「算数・数学教育の今日的課題」
- 子どもを逞しく育てる授業をめざして -
講師 鈴木 正彦 教授(大阪教育大学)

(参加) 大阪府教育委員会・東大阪市・柏原市・八尾市各教育委員会、大阪府北河内・中河内・南河内地区学力向上フロンティアスクール各校、八尾市・柏原市内小・中学校他

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

|                      |                            |                   |            |          |
|----------------------|----------------------------|-------------------|------------|----------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                 | 14年度からの継続校        |            |          |
| 【学校規模】               | 6学級以下<br>13～18学級<br>25学級以上 | 7～12学級<br>19～24学級 |            |          |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>一部教科担任制           | T・Tによる指導<br>その他   |            |          |
| 【研究教科】               | 国語<br>生活<br>体育             | 社会<br>音楽<br>その他   | 算数<br>図画工作 | 理科<br>家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |                            | 有                 | 無          |          |